



コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 19

2017.4.15

～見えてきた2年目の課題～

NPO 法人イフパット 研究員 宮崎 雅之
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

Hola! こんにちは。今回は日本からの訪問者を迎え、ファシリテーターチーム及びモデル集落にとっても刺激的な5月6日からの一週間をお伝えします。今回の訪問を通して、様々な課題も見えてきました。2年目を迎えたプロジェクト、本当のスタートはここからです。各省庁からの職員で形成された混合チームのメリットをどのように生かすかを実践する時が来ました。そして、住民との関わり方も、今後住民グループが独り立ち出来るよう、おんぶにだっこではなく、自立を促すような対応に少しずつ変えていく必要があります。

■モニタリング調査団の訪問及び生活改善短期専門家による技術移転

プロジェクトの進捗視察のため、JICA 筑波から金子専任参事、玉川大学から太田准教授がオロティナにいらっしゃいました。まず初めに本草の根技術協力事業の協力機関である農牧省への訪問、日本の松川町にも視察を行ったことのあるフェリペ副大臣との会談にて、コスタリカでの生活改善の今後について意見交換が行われました。その後、オロティナ市へ移動、ファシリテーターチームとの活動進捗報告会、モデル集落訪問が実施されました。

また、生活改善短期専門家の和田（NPO イフパット研究員）による、ファシリテーター能力向上を目的とした実践演習ワークショップが開催されました。このワークショップを通して、ファシリテーターとしてどのように住民と接するべきか、何を意識する必要があるのかを確認しました。そして、住民を対象とした生活改善講習会で活用されている現状分析ツール活用の手法及び目的の再確認、その現状分析ツールを用いて行うワークショップ

の結果を活動計画策定までどのように落とし込むかの確認作業を行いました。モデル集落での、活動振返りの場でも、和田の指導の元、ファシリテーターが指揮を取り、住民から意見や感想を引き出していました。今まで、ファシリテーターチームはどのように住民と接する必要があるのか、ということをはほとんど考えたことがなかったので、とても良い研修会となりました。また、現状分析ツールを用い住民の生活改善計画策定をするという意味では生かされていない部分があったため、今後新たなグループと活動を開始する際にはツールを最大限活用できると思われまます。住民との活動振返りに関しても、今まで行って来た現状分析ツール（家庭環境マップ、一日の予定）を見直す良い機会となり、振返りや見直しをする習慣のないファシリテーターや住民には新たな気づきを促すことが出来ました。

■家族関係改善に向けた講義

生活の質の向上の1つのテーマとして掲げている「家族関係」の一環として、ファシリテーターチームの心理学を学んだ一人（市役所職員）が、男女間の違いについての簡単な講義を行いました。日々の生活において、男性がどれだけ家事をしていないか、またそれに対して女性は一日中走り回っている日常の様子について、ビデオを通して紹介しました。女性住民からは、男性はほうきで部屋を掃除しないもの、料理をしないものだと思っていて、家事は当然女性が行うものだと思っていた、というような意見もありました。それは、自分がそのような環境で育ったため、それが当たり前だと思っていたようです。しかし、常に家事を手伝ってくれる男性がいる環境で育った住民もおり、メンバー間で様々な意見交換が行われ、この講義が良い気づきの場となりました。

■家庭訪問の重要性

生活改善の中でとても重要な活動である家庭訪問ですが、全8回の講習会が終わり、具体的なテーマをもった講習会が始まったあと、家庭訪問はさらに重要な役割を持ちます。今まで、定期的集まって行ってきた講習会は回数も減り、変則的に実施されるようになります。住民の中には、生活改善活動はこれで終わったと感じてしまう人も出てきます。一方で、住民とファシリテーターの距離が離れないようにするために必要になってくるのが、定期的（1回／月程度）な家庭訪問です。全8回の講習会が実施されている最中から行われている家庭訪問は、住民の小さな変化に気づくという意味でも大切な活動となります。

家庭訪問時に、何かの改善点が見られるのがベストですが、毎回改善点を発見しなくてもいいのです。一緒に椅子に座って、世間話をして住民に寄り添うことが必要なのです。そうすることで、ファシリテーターと住民との間に信頼関係が築かれ、住民のニーズや新たな課題が見えてきます。もちろん、訪問するファシリテーターは他愛もない会話の中から、問題点や改善点を発見する努力をしなければなりません。相手の立場になって考える

この作業はなかなか難しいことですが、ファシリテーターはこの家庭訪問の重要性を再認識し、活動を強化して必要があります。

それではまた次号まで！ ¡Hasta la proxima! (アスタ ラ プロキシマ)



写真 1：農牧省でのフィリッペ副大臣との会談



写真 2, 3：モデル集落での振り返りワークショップ及び実践演習ワークショップ



写真 4：家庭菜園の技術指導



写真 5,6：市役所職員による講習会及びグループメンバーのベビーシャワー



写真 7：腰が痛くならないようにブロックを増やし、高さを変えた洗面所。また、その横の全自動洗濯機は、自分の趣味に費やす時間を増やすためにパートナーと相談して購入を決意した。